

パプアニューギニア:蔓延する警察官の少年少女残虐

拷問とギャングレイプに対する法的処置

(ポートモレスビー (POM)、2005 年 9 月 1 日) – ヒューマン・ライツ・ウォッチはパプアニューギニア政府に対し、警察官による収容者への暴力行為、レイプ、及び拷問を直ちに止めさせるべきだと本日公開した報告書で述べた。犠牲者の多くが子供である。

124 ページの報告書「彼らの身勝手なルール:パプアニューギニアの子供たちが警察官の暴力行為、レイプ、及び拷問を受ける」には、少年少女が銃撃やナイフで刺されている現実や、銃の先、鉄の棒、棍棒、拳、ホース、椅子などで殴りつけられている状況を記録している。時には無理やりコンドームを噛ませ、それらを飲み込ませるなどの残虐行為も見られる。これらの行為は、警察署内ではもちろん、車やバラック内でも確認されている。さらに、他の大人と一緒に汚い部屋へ定期的に閉じ込められ、医療的ケアを受けることさえできない子供たちが数多くいる。

「パプアニューギニアの警察官にとって極度な暴行は日常的に行われている」とヒューマン・ライツ・ウォッチ、チルドレンズ・ライツ部でシニア調査員を務めるザマ・カーセンネフは述べる。「公共の安全を保ち、暴力から子供たちを守る任務を果たすどころか、警察官自らが想像を絶するほどの極悪な行為を行っている。」

パプアニューギニアにとってオーストラリアは最大の援助資金供与国であり、パプアニューギニアにおける国民一人当たりに対するオーストラリアの援助資金は最も多い。オーストラリア政府が援助資金を提供する最大の目的は人権保護の強化にあるが、現状、大部分の資金が警察官に提供されているため、この目的は全く達成できていない。オーストラリア政府は、パプアニューギニアの警察に資金提供したことは大きな誤りであり、更なる警察官の人権脅迫を増加させてしまったと認識している。

「オーストラリア政府との契約は、パプアニューギニアの警察官に対して子供達への暴力、レイプ及び拷問を増加させるチャンスを提供してしまった」とカーセンネフは主張する。「オーストラリア政府は、パプアニューギニアの子供が脅かされている人権問題を他の課題で覆い隠してはいけない。」

約 560 万人の人口を抱えるパプアニューギニアでは、全人口の約半数が未成年者である。半数以下の子供達が学校に通っているが、学校を中退した者の多くが無給の仕事に就いている。その中でも、ギャングメンバー(ラスコルス)への参入、路上売買を行う麻薬業者、売春、または同性愛者との性行為に関わる少年は警察の暴行を受ける対象になりやすい。

警察官による売春婦や同性愛者に対する強姦が、パプアニューギニア国内で過熱している AIDS

問題をより深刻化させていると、ヒューマン・ライツ・ウォッチは述べている。これらの問題が AIDS 感染者の増加、コンドーム使用の回避、アンダーグラウンドへの引き込みが、HIV の防衛方法や医療サービスなどの生命に関わる重要な情報から遠のいてしまう人々を増加させている。専門家によると、パプアニューギニアには最低 8 万人以上の人々が HIV に感染しており、首都では成人の 3-4 パーセントが既に感染していると推測されている。この感染率は他の地域に比べて最も高い。

「警察官による暴行を原因とする HIV/AIDS を防ぐためには、政府、市民社会、及び国際援助組織の協力が不可欠である」とカーセンネフは主張している。

警察官による残虐行為は、国内の治安を守る効力を全く伴わないとヒューマン・ライツ・ウォッチは宣言する。人々は警察官の暴力行為を恐れるあまり、犯罪の報告や調査への協力なども拒んでいる。パプアニューギニア政府でさえ、増加する警察官の暴行に悩まされている。

このような中で、政府の前向きな姿勢が見られる活動の一つが少年裁判所の設置と、警察、治安判事、その他子供たちの監禁を回避している者へのガイドラインを作成したことである。

「新しい少年裁判所と少年司法の確立は問題解決の重要な第一ステップではあるが、今後、これらがただの書面で終わるのではなく、確実に実行される必要がある」とカーセンネフは述べる。「しかし、子供達を脅威に陥らせている警察官の過剰な暴行がこれらの試みを損なわせている。」

警察官自身がこれらの規律を実行しようとしてない。犯罪者に対する罪が軽い若しくは全く罪を負わない、善行を後押しするきっかけが無い、警察官の暴行を廃止させるための訓練に十分な効力が無いことなどが問題として挙げられる。「犯罪から子供達や社会的弱者を守ること以外に政府に問われている責任などない」とカーセンネフは述べる。「政府が真剣に子供たちを守ろうとしているならば、暴行、レイプ、拷問などを繰り返す警察官に対して何かしらの処置を施しているだろう。」

ヒューマン・ライツ・ウォッチは以下の目的でパプアニューギニア政府に呼びかけを行った：

- 公的に否認する警察官の暴行、
- 犯罪者に対する免職と起訴、
- 子供達に対する警察官の犯罪行為を独立した組織に監視させる

さらに、ヒューマン・ライツ・ウォッチはオーストラリア政府や他の国際援助機関に対して、罪を犯している警察官や司令官の説明責任の強化、警察官を監視する独立した外部組織への人材供給、更には現地で活動する人権保護関連組織への支援の重要性について訴えた。

「彼らの身勝手なルール：パプアニューギニアの子供たちが警察官の暴力行為、レイプ、及び拷問を受ける」は以下を参照。<http://hrw.org/reports/2005/png0905/>

子供たちの証言：

「警察官がレポートを書くための部屋があり、その部屋へ人々を連れて行くんだ。(3人の警察官が)僕の背中を押し、抱え込み、床へ叩きつけた。僕は、彼らから棒で殴られそうになったので、その棒を腕でとめた。頭からセメントの床に叩きつけられたときに頭部か出血したんだ。とても痛かった。そこで彼らは僕の声明を求めたんだ。その声明書に何が書いてあったのかはわからない。だって、彼らはその紙を見せようとはしなかったからね。そこで僕は警察官に言ったんだ。(靴を盗んだこと)今回が初めてです。暴力を振るわないでくださいと。でも彼らは一切僕の話に耳を傾けようとはしなかったんだ。」

—2004年9月、ある男の靴を盗み逮捕された少年。自身は14歳と述べるが、実際は幼く見える。

「警察官がきて、女の子を一人ひとり連れて行ったわ。そこには5人の男がいたの。女の子も5人いたので、男には一人づつ女の子がついたわ。一人の男が私のほうへ来た。私は泣きながら彼に言ったの。『あなたたち、私のことを既に叩いたじゃない』とね。私を殴った男から連れ出されそうになったとき、『私はあなたに縛られているのに、どうやって動けるといふの』といったの。そしたら、彼は私のお尻を蹴りつけ、叩き付け、私を押し倒したの。私の背中にはこぶができ、お尻には痣。その後、彼らは残り4人の女の子を連れ去ったの。彼らはやりたい放題だった。あの晩は満月の光が土の上に見えたわ。私は、目の前の光を窓から覗き込んだの。彼らはとつても強引だったわ。他の女の子たちも、縛られた部分に傷ができ、セックスを虐げられたときにお尻に痣ができていた。」

—高速道路で止められた14歳、または15歳の少女。彼女は強姦を受けていないと主張する。

「僕が入れられていた刑務所には幅広い年齢層の男たちがいたよ。そのうちの多くが大人だった。数えられないほど沢山いるんだ。実際僕も数えたことは無いけれど。刑務所の中は悪臭が漂っていた。痛みには耐えられなくて、眠れない夜もあった。寝るときは壁に寄りかかっていたんだ。だって、ベットはもちろん、ブランケットもマットもないし。排泄物がそこらじゅうに転がっている状態さ。日が照っている日中は特に匂いが酷くなる。トイレはあるけど、その中にはかびが生えていて、水も溜まっていないんだ。薬も無かった。水も無く、体を洗うこともできなかった。僕の親が食べ物と水を家から持ってきてくれることがあったよ。だって、刑務所では夕方に1リットルの水と数枚のビスケットしかくれないから。」

—2004年、窃盗で2週間刑務所に入れられた16歳の少年。彼も、尋問中に暴行や性的嫌がらせを受けたと述べている。

警察とその他政府職員による証言:

「君が協力したならば、私は何故君を殴る必要があるのか。時に自らが怒りを爆発させていたではないか。そして、罪を犯した者は真実を語らない。私たちはこのような行動に苛立ち、君たちを殴るのだ。」

その後、西セピック地方の犯罪調査長は、尋問中に暴行を行うことは警察官の規定に反するものであり、その警察官は規定を破ることなど一切していないと主張した。

「夜間勤務に就く大抵の警察官が、女性や少女を監禁場に閉じ込め、強姦した。話によると、彼女たちは警察署に連れられ、強姦されていたと推測できる。」

—西ハイランドの警察官が UNICEF/NGO 調査員に打ち明けた。

「全ての義務が崩壊寸前にある。犯罪行為の防止や、法律違反を取り締まるための監視制度が不十分であること、あるいは適時適切な対処が取られてこなかったことがこれらの問題を引き起こしている。」

—国内の治安問題についてパプアニューギニア保安隊審査委員会が首相に提示した報告書。ビレ・キミソパ。2004年9月、37-39 ページ。